

風土記の丘の花だより²⁹⁹

今、そしてこれから見られる植物(2025年12月6日)

風土記の丘は今、落ち葉の季節です。先日、若い女性が一面の落ち葉の中に立って写真を撮っておられました。お掃除をされる方には申し訳ありませんが、季節に応じた風景というのも風情があつていいものです。また、たくさん実を付けたナナミノキをご覧になって「万華鏡みたい」と表現された女性もおられたそうです。私のような者には到底及ばない感性です。



木偏に冬と書いて「柊・ひいらぎ」です。そのヒイラギの白い花が咲きました。寒くなったら咲いてくれるので、よくこの漢字を充てたものだと感心させられます。とても小さな花ですが、花が少ないので嬉しい花です。一説によるとその昔、とげで刺されて痛むことを「ひいらぐ」と言つたらしく、そこから「ヒイラギ」という名前になったそうです。株に雌雄の別がありますが、雄花も雌花もよく観察しないと違いは分かりにくいです。花のあとに実ができるのはもちろん雌花の方です。



万葉植物園でマユミの実がきれいな紅色に色づいています。裂けた実からは真っ赤な種子が顔を覗かせています。今年は例年になくたくさんの実が成っています。マユミは万葉集に10首余り詠まれていますが、どれも「弓を引いて、どうのこうの」というもので、こんなきれいな実なのに、実を詠んだ歌は見当たりません。同じくニシキギ科のマサキの実もこれと同じように裂けます。船屋の南辺りで見られます。



サネカズラ、別名ビナンカズラの実を万葉植物園で見つけました。毎年たくさん実る、新池の西側のツバキの木に巻き付いた株に、今年は一つも実が成っていませんでした。不思議に思いつつも、残念に思っていましたが、やっと見つかりました。百人一首にも「名にし負はば 逢坂山の さねかづら 人にしられて くるよしもがな」という歌があるので、ちょっとだけ有名な植物かも知れませんね。別名の「美男葛」は。昔この樹液を男性の整髪料に用いたことによります。これをご覧になる頃まで、残っていればいいのですが・・・



花の少ないこの季節です。最後はキノコを紹介させてください。「キノコらしくないキノコ」ですね。名前はツチグリといいます。「なんとかタケ」という名前ではありません。キノコの姿形はまさに千差万別ですね。この画像を見た私の友だちは「ダンスしているみたい！」と表現してくれました。確かにてるてる坊主みたいな人形が踊っているようですね。湿ると開いて、上の小さな穴から胞子を出します。次回で300号、よく続いたものです。皆さんのおかげです。 松下